

スポーツツーリズムの推進による関係人口の拡大と情報発信

静岡県立大学 大久保あかね観光研究室
指導教員：静岡県立大学教授 大久保あかね
参加学生：小倉薫人、加藤楽菜、安住龍佑
市川悠人、松井智生、大平悠人

1 要約

本研究では県内でも重要なスポーツ拠点である小山町において、さらなるスポーツツーリズムの振興を図るための情報発信と提案を行った。

具体的には、県内高校生へ実施したアンケート結果を参考に「小山町のスポーツ合宿環境」をPRするための動画を作成するとともに、宿泊施設や練習施設などの取材を通し判明したことを踏まえ、ハード面とソフト面の2つの視点から、行政がスポーツツーリズムの振興のために果たすべき役割について提案を行ったものである。

2 研究の目的

小山町は、東京2020オリンピック・パラリンピック大会や、世界的なモータースポーツ、サイクルスポーツの大会が開催される県内でも重要なスポーツ拠点である。これらの大会を通じて世界に発信された富士山麓の自然や地理的優位性を活用し、今後は小山町らしいスポーツツーリズムの振興を図ることが期待されている。

本研究では、小山町の資源を活用したスポーツツーリズムの促進を図ることを目的に、基礎的な需要調査を行うとともに、効果的な情報発信の提案を行う。

3 研究の内容

小山町のスポーツツーリズム振興を、モーターツーリズムとスポーツ合宿の側面から検討し、提案に向けて以下のスケジュールで、3回のアンケートと4回の取材、3回のフィールドワークを実施した。

また、効果的な情報発信として、アンケートを参考にして「小山町のスポーツ合宿環境」をPRするための動画を撮影・編集し、高校に配布する。

・7月【大学生へのアンケート調査と集計】

事前調査として大学生と大学院生に対して、合宿経験や合宿先に求める環境などを尋ねるアンケート調査を行った。練習環境を重視していることが分かったほか、宿泊施設の設備に対する不満が多いことが分かった。また、小山町の近隣地域へ合宿経験がある人が一定数いたことが分かった。

・8月10日【取材と現地調査】

先進事例として「富士ざくらホテル」にて、社長にホテルでの合宿受け入れの取り組み状況やホテル運営者から見た小山町の合宿地としての現状を取材した。また、小山町役場にて役場の方からスポーツ合宿受け入れの現状を教わり、町内数か所のグラウンドや走り込みコースを視察した。



写真1.小山町役場での集合写真

・9月14日【扇屋旅館への取材】

小山町内の宿泊施設の中で合宿受け入れを活発に行っている宿の一つである扇屋旅館に合宿受け入れ状況や旅館としての取り組みについて取材を行った。

・9月21日【山久荘への取材】

扇屋旅館と同様に合宿受け入れを積極的に実施している山久荘へ取材を行った。

・10月21日【アンケート送付】

静岡県内の野球、弓道、陸上長距離の強豪校30校を対象に、部活動部員と指導教員の合宿意向と求める合宿環境についてのwebアンケートを作成、依頼分を郵送した。

アンケートは10月31日から11月10日を回答期間とし、回収できたサンプル数は部員75件、教員27件であった。サンプル数は少なかったが、練習環境と宿泊施設を重視する意見が多かったことから、小山町の練習環境と宿泊施設に焦点を当てた動画を作成することとした。



写真2.神山先生への取材の様子

・11月21日【合宿コーディネーターへの取材】

富士ざくらホテルにて合宿コーディネーターをされている神山心様へ取材を行い、陸上長距離指導者の観点から、小山町が合宿地として優位な点、これから小山町が取り組むべきことについてお聞きした。

小山町の優位点として、首都圏から近く、立地が良いことから短期間での強化合宿などの誘致に向いている点、標高がある程度高く町内に坂が多いため、ランニングによる心肺機能強化や体力づくりを目的とした練習が可能である点があげられた。また、合宿中の怪我や急病などへ対応するために病院等との連携を取っているというお話をお聞きし、アフターフォロー面の協力体制を町をあげて充実させることで、より魅力的な合宿地となるのではないかと感じた。



写真3.PV撮影中の様子

・12月26・27日【小山町合宿PV撮影フィールドワーク】

これまでの取材やアンケートの調査結果に基づき、小山町の合宿環境をPRするためのPV撮影を町内各地で実施した。実際に現地に足を運んで撮影をしたことで、小山町の合宿地としての魅力に改めて気が付くことができた。



写真4.PV撮影終了直後の様子



写真5.撮影後の集合写真



写真6.遊RUNパーク玉穂視察

4 研究の成果

(1) 当初の計画

- ① 県内高校等へのスポーツ合宿の実態・需要調査（質問紙）
- ② 小山町内の宿泊施設・スポーツ施設の供給等の調査（質問紙・取材）
- ③ 小山町内でのトレーニング適地調査（取材）
- ④ 小山町内での視察及びPV撮影と次年度以降の合宿意向調査



写真7. PV閲覧用QRコード

(2) 実際の内容 (A予定通り B一部修正 C中止 D新規)

・県内高校に対しては、野球、弓道、陸上長距離の強豪校30校を対象に、部活動部員と指導教員の合宿経験、合宿先での行動、合宿先で困ったことや求める合宿環境についてgoogleformを用いた質問紙調査を実施した。(A)

《顧問の回答》

22件の回答

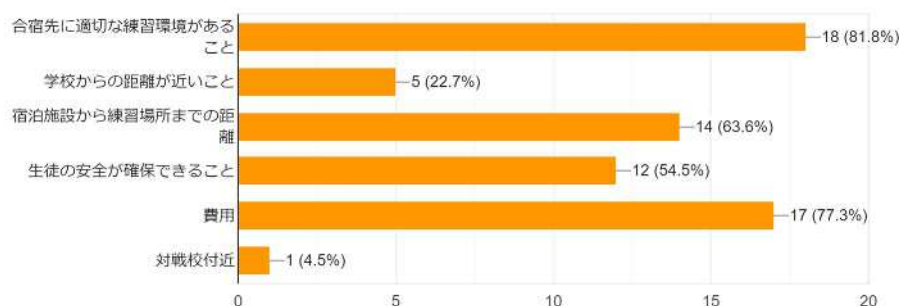


図4.合宿先を選ぶ基準

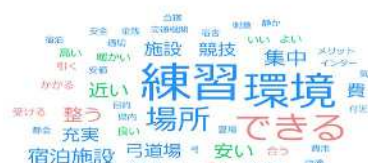


図5.合宿先で不満に思ったこと(テキストマイニング) 図6.合宿先に求める環境(テキストマイニング)

たい度合”では、3.57/5.0点となった。受け入れにあたっては、送迎補助、宿泊客が施設容量を超えてしまう場合の町内他施設との協力、練習施設の整備を求める意見が多くあった。

(2)合宿コーディネーターへの取材より

小山町は坂や準高地が多い一方練習施設が充実していないという点から、公道でも練習することのできる陸上長距離や体力づくりの強化合宿にターゲットを絞るべきという意見を頂いた。

また、町をあげて合宿誘致を行っている新潟県妙高市や裾野市の取り組みについても教えて頂き、広報や自治体による環境整備の重要性に気づくことができた。

5 地域への提言

調査の内容を踏まえ、ハード面とソフト面の2つの視点から働きかけが必要であると考えます。

高校生と教員へのアンケート結果より、練習環境の整備や宿泊施設の充実という声が多く挙がった。施設の点検からはじめるなど投資や改善の検討を提案する。練習環境の整備に関しては、単に施設を新設することだけでなく、ランニングなどの練習に適した環境整備を検討してほしい。例えば、ランナーに向けて道路に距離表示を行ったり、ルートをわかりやすくするためのペイントや道案内などの看板などである。また、宿泊施設の取材から、施設間でスポーツ合宿のノウハウ(食事・送迎・練習場所の確保など)に関する情報共有や連携を実現することが求められていた。またコーディネーターへの取材からは、道路使用などの許認可や医療施設との連携など、選手が安心して練習に取り組むための後方支援や協力体制の構築が必要であることが分かった。これらのステークホルダー間の連携、協力体制の構築を推進するために行政の役割が大きいと考えられる。そして、これらの取り組みを積極的に広報し、魅力的な合宿地であることを合宿団体へ認知させることが小山町のスポーツツーリズムの振興につながると考えられる。

6 地域からの評価

オリンピック・パラリンピックが開催された町としてその後のレガシーをどう残していくか、魅力ある町としていかにスポーツツーリズムを発展させていくか、そんな課題が小山町には課せられていたので、今回の調査研究は非常に興味深いものでした。町内宿泊事業者への聞き取り調査、大学スポーツ部へのアンケートなど様々な角度からデータ収集を行ってくれたので、町としても新しい気付きがいくつもありました。

小山町では、今年度からスポーツ合宿に対する助成制度も始めました。町の魅力、課題、ターゲットなど様々な分析を行い、スポーツツーリズムの発展を図っていきたくと考えております。

今回実際に小山町で合宿を行い、いくつかの競技を実践しながら作成していただいたプロモーション動画は、今後の町のPRツールの一つとして活用していきたくと考えております。